伊藤 達也 ITO Tatsuya

教員の教育・研究活動報告

役職／職名	フランス語学科長／学長特別補佐／国際教育連携推進機構副機構長／教授	所属	外国語学部 フランス語学科
ふりがな	いとう たつや	生年	1968年
学歴	慶應義塾大学文学部文学科フランス語フランス文学専攻修了（1992年） パリ第3大学言語学科修士課程（慶応義塾派遣交換留学）（1993年） パリ第7大学言語学科修士課程修了（1995年） 慶應義塾大学文学研究科フランス文学専攻修士課程修了（1997年） パリ第7大学DEA課程修了（1998年） パリ第10大学博士課程修了（2003年）		
学位	学士（文学）[慶應義塾大学]（1992年）、修士（言語学）(75796AA0045)[パリ第7大学]（1995年）、修士（文学）[慶應義塾大学]（1997年）、DEA(No PARVII 848349)[パリ第7大学]（1998年）、博士（言語学）(No 22034115)[パリ第10大学]（2003年）		
研究分野	フランス語学、発話意味論、日仏対照言語学 フランス語圏文化、翻訳論、エピステモロジー		
研究テーマ	発話意味論 日仏対照言語学 多義性 翻訳論 エピステモロジー		

主な研究業績

著書

題名	単・共	発行日	発行所名	備考
Interactions en jeu dans la variation sémantique des unités morpho-lexicales. Deux études de cas : l'adjectif bon en français et la réduplication en japonais.	単	2003.3	Université de Paris X - Nanterre	博士論文(仏語) 423p.
『エコラリアス:言語の忘却について』ダニエル・ヘラー＝ローゼン著、関口涼子訳。解説 伊藤達也 「ダニエル・ヘラー・ローゼンとは何者か？」	共	2018.6 .8	みすず書房	pp. 259-266 解説文執筆
世界文学の小宇宙１欧米・ロシア編『悪魔にもらった眼鏡』（亀山郁夫・野谷文昭編）メリメ「イルのヴィーナス」	共	2019.4.25	名古屋外国語大学出版会	pp.273-329 Prosper Mérimée (1835) La Vénus d'Ille の翻訳・解説執筆
『現代思想』12月臨時増刊号 ドストエフスキー生誕200年（責任編集 亀山郁夫・越野剛・望月哲男）S・フォルティ「新-悪霊（抄）-悪と権力の再考」	共	2021.11.25	青土社	pp. 174-200 Simona Forti (2012) I nuovi demoni - Ripensare oggi male e potere (Feltrinelli) の抄訳
『言語とコミュニケーション』	共	2025.4.1	名古屋外国語大学出版会	第１章「言語とコミュニケーション」、第３章「形態論、意味論」を担当。
『ことばについての7章』（『言語とコミュニケーション』改訂版）	共	2026.4.1.	名古屋外国語大学出版会	序章「言語とコミュニケーション」、2章「形態と意味」

学術論文

題名	単・共	発行・発表日	発行雑誌又は発行学会等の名称	備考
Sur la réduplication des pronoms interrogatifs en japonais – nani nani, dare dare, itsu itsu, doko doko	単	1999	Japon Pluriel 3, Philippe Picquier, Société Française des Etudes Japonaises	仏語 pp. 315-322
「形容詞bonの多義性の理解に向けて」	単	2004.5	『フランス語学研究』日本フランス語学会	38号 pp. 1-11
Sarah de VOGUE et Rémi CAMUS (eds) Linx No 50 Variations sémantiques et syntaxiques des unités lexicales : études de six verbes français, Université Paris X.	単	2005.5	『フランス語学研究』日本フランス語学会	39号 pp. 80-81
「量を表す目的語を伴う仏語couperと日本語ワル、キルの意味論的考察」	単	2006.8	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	30号 pp. 83-106
「Voir と「見る」に於ける知覚動詞の多義に関与する異質的要因の研究（第一部）」	単	2006.8	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	31号 pp. 43-58
「Voir と「見る」に於ける知覚動詞の多義に関与する異質的要因の研究（第二部）」	単	2007.2	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	32号 pp. 157-170
「フランスにおける言語起源論の再燃」	単	2007.5	『フランス語学研究』日本フランス語学会	41号 pp. 64-68
「「出る」とSortir：トポロジー空間の召還と構築的意味論」	単	2008.2	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	34号 pp. 105-122
Nozoku (entrevoir /excepter) est-il polysémique?	単	2008.8	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	35号 pp. 63-73
「ハズとカネルのモダリティ的用法について」	単	2010.2	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	38号 pp.77-92
「Jouerと「あそぶ」の意味論的考察」	単	2010.8	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	39号 pp.53-70
「フランス語動詞courirの意味論的研究：同一性の把握」	単	2012.8	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	43号 pp. 20−29
「ローラン・ゴスランのモダリティ論 - 表象の認定としてのモダリティ」	単	2012.12	『フランス語と日本語におけるモダリティ』2008年度～2012年度科学研究費補助金　基盤研究（C）課題研究　20520348 （研究代表者渡邊淳也/筑波大学）	pp. 20-30
「語彙意味論に適する「相互依存的」構成性について」	単	2015.2	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	48号 pp.135-143
Etude des emplois de quoi en clôture	単	2016.8	『名古屋外国語大学紀要』名古屋外国語大学外国語学部	51号 pp.35-49
自然言語の歴史的変化と文法化-日英仏語の事例研究と数理的アプローチの批判的検討を通じて	単	2017.5	『フランス語学研究』日本フランス語学会	51号 pp.111-131
『一般言語学講義』の受容の過去、現在、将来（誌上シンポジウム「ソシュールのテクストをめぐって」）	共	2018.5	『フランス語学研究』日本フランス語学会	52号 pp.17-27
現代日本語における格助詞「で」の多義性の理解に向けて	共	2019.12	『慶応義塾大学日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション』	第51号 pp.105-124
「偽大な翻訳はすべて再翻訳である」ーアントワーヌ・ベルマンの再翻訳論を読む	単	2020.3.10	『Artes MUNDI』名古屋外国語大学出版会	Vol. 5 pp.18-32
現代日本語における格助詞「で」と「から」の比較：本質的機能の仮説と制約の説明	共	2020.11	『藝文研究』慶應義塾大学	118号　pp.1-15
動詞「はしる」の３系列の意味とスキャニングの３つのアイプ	共	2021. 7	『名古屋外国語大学論集』名古屋外国語大学	No.9　pp.87-104
ウイリアム・マルクスのコレージュ・ド・フランス就任講義を読む	単	2022.3	『Artes MUNDI』 名古屋外国語大学出版会	Vol. 7 pp.14-28
現代日本語における格助詞「に」の発話意味論的記述	共	2022.4	『名古屋外国語大学論集』	No.10 pp.117-143
「閉会のことばにかえて」Antoine Culioli “En guise de clôture”（Trad. Jap. et comm. Tatsuya ITO）	単	2022.7	『名古屋外国語大学論集』	No.11 pp. 269-283
現代日本語における格助詞「から」の体系的記述に向けて	共	2022.12	『慶應義塾大学日吉紀要：言語・文化・コミュニケーション』	No. 54 pp.1-22
現代日本語の格助詞「より」の多義性の統一的説明の試み	共	2023.6	『慶應義塾大学日吉紀要：人文科学』	No. 38, pp. 41-56
「多国籍資本主義時代の第三世界文学」（Fredric Jameson の論文翻訳と紹介）	単	2024.4	『Artes MUNDI』名古屋外国語大学	Vol. 9, pp.47-64
第59回日本翻訳文化賞受賞記念、野谷文昭インタビューと解説	単	2024.4	『Artes MUNDI』名古屋外国語大学	Vol. 9, pp.91-112
「現代日本語における格助詞「を」の発話意味論的分析 ―意味的同一性とヴァリアシオンの記述の試み―」	共	2024.12	『発話言語学研究』発話言語学研究会（東京大学）	Vol.3, pp. 47-70
「A. キュリオリの発話言語学入門 ―1日目―」(翻訳と注釈)	共	2024.12	『発話言語学研究』発話言語学研究会（東京大学）	Vol.3, pp.182-230
「A. キュリオリの発話言語学入門 ―2日目―」(翻訳と注釈)	共	2024.12	『発話言語学研究』発話言語学研究会（東京大学）	Vol.3, pp.231-275
「A. キュリオリの発話言語学入門 ―3日目―」(翻訳と注釈)	共	2025.12	『発話言語学研究』発話言語学研究会（東京大学）	Vol.4, pp.170-204
「A. キュリオリの発話言語学入門 ―4日目―」(翻訳と注釈)	共	2025.12	『発話言語学研究』発話言語学研究会（東京大学）	Vol.4, pp.205-241
格助詞「へ」の意味的同一性と使用制約 ―「に」との分布および意味的差異の比較を通じて―	共	2025.12	『発話言語学研究』発話言語学研究会（東京大学）	Vol. 4, pp.22-37
日本語の形容詞「いい」の意味的同一性とヴァリアシオンの記述の試み	共	2026.7	名古屋外国語大学論集	第19号, pp.29-45

学会発表等

題名	単・共	発行・発表日	発行学会等の名称	備考
「フランス語の複合形容詞の意味」	単	2007.11.10	慶應義塾大学（三田）日本フランス語学会例会	
「モダリティの意味、モダリティと意味―日仏対照言語学の視点から」	単	2008.12.7	筑波大学　科学研究費による招待講演	
「日仏対照言語学の可能性：はしる/courirの分析を通じて」	単	2011.5.14-15	国際セミナー「日本語とフランス：語対照言語的アプローチ」名古屋大学	
"L'écriture académique et la pensée critique"	単	2015.2.21	名古屋大学　2nd International Symposium on Academic Writing and Critical Thinking	使招聘講演：仏語
“Iru et aru, deux verbes qui marquent l'existence en japonais”	単	2015.4.10-11	パリ東洋語学校(INALCO) Prédication exsistentielle dans les langues naturelles : valeurs et repérage, structure et modalité	使用言語：仏語
「Marqueurs discursifs/particules énonciatives/coordonnants 談話標識の意味論的分類の試み」	単	2015.4.18	早稲田大学　日本フランス語学会特別研究推進プログラム	
”Réexamen de quoi de 'clôture' et de bon discursif en français”	単	2015.5.2	慶應義塾大学（三田）Journée d'études “Marquers discursifs”	使用言語：仏語
自然言語の歴史的変化と文法化 – 日英仏語の事例研究と数理的アプローチの批判的検討を通じて-	共	2016.5.28	学習院大学 日本フランス語学会2016年度シンポジウム	企画、司会
Logos et Lemme de Tokuryu Yamauchi (1890-1982) Une critique de la logique occidentale	単	2018.2.27	ブリュッセル自由大学	招聘講演：仏語
La particule japonaise DE	共	2018.3.9	パリ東洋語学校(INALCO) Séminaire du groupe TOPE	Préparé par F. Ashino et T. Ito, présenté par T. Ito
KARA : altérité ou extériorité ?	単	2018.6.9	青山学院大学、「他性」をめぐるシンポジウム	学会発表：仏語
« Il est venu, son fils avec ! » Une réflexion précaire sur un emploi adverbial de avec en français parlé	単	2023.5.27	日本フランス語学会シンポジウム、慶應義塾大学（日吉）	学会発表：仏語
De la polysémie à la variation	単	2023.6.17	日本フランス語学会ワークショップ　慶應義塾大学（三田）	学会発表：仏語
Description de la particule MADE ("Jusqu'à", "même") en japonais contemporain : la frontière et ses interprétations variées	共	2023.10.6.	Colloque Frontière / Frontiers, Université de Tours	Préparé par F. Ashino et T. Ito, présenté par T. Ito
Discret-dense-compact dans les constructions à répétition verbale en japonais	共	2025.5.30	Autour des distinctions discret/dense/compact et énonciateur/locuteur/positions énonciatives dans la théorie d'Antoine Culioli （Riga）	Préparé et présenté par F. Ashino et T. Ito

主な教育上の業績

大学教育の改善に関する活動

活動事項	年月	備考
クラスアドバイザー	2005年～	
卒論指導	2005年～	
大学院研究科	2007年～	

作成した教科書

教科書名（対象講義名）	単・共	年月	備考
『パザパ 話せて書けるフランス語』（三修社）	共	2017年	

主な職務上の業績

社会的活動等

活動事項	期間（年月）	活動機関名
文化イベントの企画・コーディネート	2013～	アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会
「名古屋・ランス姉妹都市提携５周年記念事業」プロポーザル委員	2022.6	名古屋市

所属学会

所属学会名称

所属学会名称
日本フランス語学会
発話言語学研究会

所属学会役員歴等

所属学会及び役員名	期間（年月）	備考
日本フランス語学会『フランス語学研究』編集委員	2014～	
発話言語学研究会『発話言語学研究』編集委員	2022～	

主な職歴

期間（年月）	事項	備考
2005～2006	名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科助教授	
2007～2015	名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科准教授	
2016～	名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科教授	
2018（2～3）, 2019（2～3）	ブリュッセル自由大学文学翻訳コミュニケーション学部招聘講師(Maître d'enseignement)	
2022. 10～2023.7	愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科フランス語圏専攻非常勤講師	

受賞学術賞

受賞事項	年月	備考
慶應義塾大学 塾派遣交換留学生	1993年～1994年	（パリ第3大学新ソルボンヌ校）
フランス政府給費留学生（第1部門）	1999年～2001年	（パリ第7大学）
フランス教育功労賞（パルムアカデミック勲章シュヴァリエ級）	2019年7月	（フランス共和国）

科学研究費等外部資金採択実績

名称	題名	機関名（採択時）	年度	備考
基盤研究(C)課題番号20520348	フランス語および日本語におけるモダリティの意味論的研究（研究代表者：渡邊淳也）	筑波大学	2008～2012年	研究分担者

主な担当科目と授業の改善と工夫

主な担当科目名 対象学部・学科

担当科目名	対象学部・学科
フランス語、フランス語圏文化、仏語史、ゼミ（言語）	外国語学部 フランス語学科
言語とコミュニケーション	世界教養プログラム

授業の改善と工夫

改善と工夫内容
ネイティブ教員と共通教科書を使う授業では、初学者に対し、十分に説明が行き届くように、各章のはじめに、目的や重要ポイントなど全体的な説明を行った。小テストを頻繁に行い、暗記事項を定着させる工夫をした。中級レベルでは、複文の構造や、接続詞の機能、パラグラフの展開に気を配らせ、修飾/被修飾の関係、品詞、多義性、語彙のパラフレーズなど言語学的な要所を正確に把握させ、文章理解を助ける工夫を行った。フランス語圏文化の紹介では、フランス語の歴史から始まり、中世、ルネサンスを経て、アカデミーの創設、ヨーロッパの植民地獲得戦争、宗教と国家との関わり、フランス語の言語管理の実情、教育とメディア、世界のフランス語圏など、フランス語の世界の多様性に目を開かせ、フランス語学習に一層の興味を持たせるような授業を行った。ゼミでは論文指導を行い、内・外部の大学院進学者を育成した。フランスの作家やアーティストを学内に招き、現在進行形のフランス文化に触れる機会を提供した。